

# ひと・まち・自然

トラまち Press

(財)世田谷トラストまちづくり情報誌

Vol. 5  
September 2010



特集

## 環境を守り育む 地域の輪

ゆるやかにつながるご近所の新しいかたち

「センス・オブ・ワンダー」が支える  
地域のつながり

福岡伸一

せたがや散歩日和 第5回

## 水とみどりの寺町をめぐる

千歳烏山駅～北烏山～南烏山へ

結び葉 第5回

鈴木誠夫さん

古民家を引き継ぎ、まちに開く



ご近所の力と  
出会う楽しさ

「篠近所」「向こう三軒両隣」「お

かしいさん」「日本には、近いの間  
係を示す表現は多い」それだけ、  
昔からご近所は、何かあれば「お

互いさま」が通じる関係だった。

「でも当たり前のかもしない。

だが、昨今は「近隣トラブル」な  
どの残念な事象がニュースを賑わ  
すことも多い毎日だ。」

「都會の暮らでは、住んでいる  
まちにどんな歴史や問題があるの  
か、知らないで日々が過ぎていく

向かいさん」「日本には、近いの間  
係を示す表現は多い」それだけ、  
昔からご近所は、何かあれば「お

特集

# 環地域の輪

丹念に手入れされた生垣から花が顔をのぞかせるまち。  
駅前の商店街と共に発展してきた人情味が感じられるまち。  
みどり豊かな伝統ある住宅街。  
そこに暮らす住民がまちの環境を守り育むために、  
町会、自治会、商店街、事業主、NPOなどと共に、  
多様なつながりを築こうとしている3つのまちを訪ねた。



「見つけた!」プレートを発見する子どもたち。道  
や道に愛称をつけたプレートが、住宅地の壁などに取り付けられている。それぞれの愛称にはい  
われがあり、興味をそそる。





少し取り残されたようになってしまった。

人と人の顔が見える、住んでいて安心なまゝの商店街は、そのまゝならではの顔になる。住民の足として、今ものとかに走り続けている東急世田谷営業、その沿線商店街のこうした動きは、商店街とともに幸福な関係を築くうえで、大きなヒントになるにちがいない。

想にならって開発した郊外分譲住宅地だ。1922年販売当時のパンフレットには「堀を作らず、低い生垣とし、外から庭を見る」とができるようになる」といったことが書かれている。先ほどの生垣の光景が頭をかきめる。このまでは、87年前からまちづくりの

ルールが息づいていることがわかる。だが、代が変わり相続税を納めるため土地を手放さざるを得ないなど、様々な理由から当初の区画も細分化されて、数也内のみ



今年で4年目を迎える「つまみぐいウォーキング」。最近ではいろいろなブログで紹介され、好評のイベントだ。

五川田園調布二丁目

東急東横線の田園調布駅から

村8号病院をもたらし、玉川田園調布と呼ばれる地区を歩く。生垣のみどりは濃く、生垣からのぞくツタ花や季節の花が風に揺れている。歩いていると広い庭のある落ち着いて

ではなく、住民が連携して「みんなで育てていくことが大事と、住んでいる多くの人たちがつながった」。そのような人々たちつながりが生まれた。そこはその後の、様々なまちづくりの一環になった。場面で活かされたものになった。

2007年には、「みどりのコモンズ」と名づけた活動のひとつとして、地域のシンボルだったヤマキを救つた。建物を建替えること

ヤキを移植するため、住民が広く資金を募り、成功させたのだが、現在その木は、ケヤキガーデンという集合住宅の前庭で元気に葉を茂らせている。



「世代を超えたつながりが、まちを守っています」

はなく、住民が連携して「みんな」で育てていくことが大事と、住ん

物のルールを守ろう」と言うのでなく、行政と連携しながら、住民同士の顔が見えるような機会をつくる。高齢化も、地域の景観保立ちは、住民も、抱えている課題を「ここ近所」のかたち

「ご近所」のかたち

全も、「みんな」で考え方、「みんな」というふうに合ったかたなりあっていく。もしかしたら、そういった考え方そのものが、このまちの伝統的なかもしれない。

もう違う。だが共通して言えるのは、事業者の多様な住民組織が、はして事業者や行政が、「実業なくゆく」や「社会的責任」をもつて、やるやかに結びついで、助け合って生きていける組織だけだ。いるという点だ。個々の組織だけ

「世代を超えたつながりが、まちを守っています」



1. 大谷石と生垣の外構。覆いかぶさるように生垣が生長している。2. 移築され、まちを見守るケヤキ。人々の想いがケヤキを守った。3. 生垣の裏には「カフェえんがわ」がある。休日には地域活動の場にもなることも。4. 「カフェえんがわ」の「ましままフェスタ」では地元出身の美術家さんが演奏。
5. 地域のお年寄りが集まる「デイ・ホーム玉川田園調布」1階のサローカ活用。6. 住民同士の笑顔が残えない「たまちまフェス」の「バザー会場」。

を組んで、それぞれの立場を生かして解決へと歩んでいく。互いの胸に見える共同体がまちの中に育まれ、必要に応じて柔軟につながり、様々な問題に応えている多くの社会。それが、私たちの子どもや孫も、安心して暮らせる社会を切り拓く、「近所」の新しいかながわのかも知れない。

を提出。これを受け、区ではより実効性のある街づくりを進めたため、2000年6月には「玉川田園調布一・二丁目地区計画」を策定。4月には住民説明会をする「まちづくり協議会」が編成された。これにより、施設よりも開発は抑制することができた。

この一連の動きで「たくさんの方らしいを行い、住民の共通の理解を得て、「いい中で育つ」ことのひつづき、「互いに顔が見える関係がいかに大切か」ということだった。環境を守るために一人で



空からの玉川田園調布一・二丁目。区画が広く、みどりが多いのがわかる。  
写真提供：国際航業株式会社







・ロシア大使館へから移築したものです。現代では少なくなったものの、古代の建築を残すことをしまして。耐震工事をしました」ということで、耐震工事をされたからみえることが可なりました。」

寺を守るために、外側からのみ見ることが可能ですが、ガラス壁の織網で見るのは、必ず見たい。寺内では貴重な近代和風彫刻、5妙寿寺が深川にあった頃に使われていたという梵鐘も、現在は大聖堂の梵鐘が代わっています。

昭和4年に竣工した梵鐘は、作られた梵鐘も、東京大震災の悲惨さが伝わってきた。

1.人目通りイケヒコの外観を  
持つ妙寿寺本堂。「【本堂】は井戸  
戸水」といいます。寺内には井戸  
の存在が見えません。3.日蓮宗・  
妙寿寺には、宮沢賢治の御碑が  
あります。4.旧鍋島邸を移築した客殿、現在  
では貴重な近代和風彫刻、5.妙  
寿寺が深川にあった頃に使われて  
いたという梵鐘。現存の大聖堂の梵鐘  
が生々しい。

扉には、「雷災時井戸水提供の  
書」書かれた金色に輝く看  
板を発見。寺境内にある井戸  
から流れ出るゆるやかとした  
宙水に手をかる。「しばしひ  
とやすみ。人のどの体も心も  
潤してぐるぐる水流存在を心か  
らありがたくなりたまふ」

一鳴ついて、寺町で二番目に  
大きな敷地を持つ妙寿寺へ。  
ツツジの植え込みの奥に建つ客殿は  
西田谷区の有形文化財に指定  
されています。旧鍋島邸だ。建  
物に向むいて、妙寿寺が代り住  
職に話を伺つた。

「こちらは一族・鍋島公爵  
家の本家である鍋島家の屋敷  
跡で、昭和4年に竣工した梵鐘  
を、昭和4年に竣工した梵鐘を  
祀る。」

市民緑地へ到着。入口にある

「じに岡と反立鳥山つつじ園地」  
約91種はあるとうツツジがあり、  
一齊に咲き誇る5月初旬頃は、  
見事な敷地を持つ妙寿寺へ。  
ツツジの植え込みが整えられて  
いる。鳥山通りを渡って路地に入  
り、寄り道しているのは給田小学校。  
校内には、千歳民俗資料館  
館があり、その隣には教科書  
など数々の資料が収蔵されて

いる。資料館の隣には、移築

した民家があり、びっくり  
仰天。その古民家の中には、座  
り敷きや床の上に小学生たちの  
机席に広がる未練を想像し、  
胸高鳴った。

子どもたちのが描かれた  
壁画を通って、再び鳥山通りに  
進み、「北山九丁目屋敷林  
市民緑地」へ到着。入口があ

る天まで届くようなカヤキの

木は、周囲の樹木を吸い取  
つてしまふようだ。市民緑地  
の所蔵品である下田さんは、  
代々続く老舗の業者で、鳥山には  
「下山千歳白糸糸揚げの地」の  
碑が残られる。さつまい、屋  
敷やや城の一部をつくり見せし、土蔵の  
をそらす。立並ぶ木々と木漏れ日に心が落ち  
ち、北山九丁目屋敷林市民緑地。

4.西沢つづけ園。開花の時期には、色と  
りどりの花が道行く人の目を楽しませ  
る。5.立並ぶ木々と木漏れ日に心が落  
ち、北山九丁目屋敷林市民緑地。



5.西沢つづけ園。開花の時期には、色とりどりの花が道行く人の目を楽しませる。立並ぶ木々と木漏れ日に心が落ち、北山九丁目屋敷林市民緑地。

6.高瀬院の弁天池。湧き出る清水が霞かみどりを

育む。2.油川に広がるスイレンのコウカ水の下から

は、たくさんのかわいいたちの息吹が聞こえてくる。

3.道の両側に並ぶ柳樹は、寺町ならではの西沢つ



5.西沢つづけ園。開花の時期には、色と  
りどりの花が道行く人の目を楽しませ  
る。立並ぶ木々と木漏れ日に心が落  
ち、北山九丁目屋敷林市民緑地。

6.高瀬院の弁天池。湧き出る清水が霞かみどりを

育む。2.油川に広がるスイレンのコウカ水の下から

は、たくさんのかわいいたちの息吹が聞こえてくる。

3.道の両側に並ぶ柳樹は、寺町ならではの西沢つ

みが現れた。こちらは西沢つ

を行き通し、路地を歩むとあ

ちらこちらにツツジの植樹込込

が現れた。こちらは西沢つ

みが現れた。こちらは西沢つ

みが現れた。こちらは





外国の  
庭に  
来たみたい

南に瀕れたレンガの小路は、より一層美しさを増したよう、みどりが鮮やかで、なんだか草花も生き生きとしているよう見えます。

#### 田中さんの感想

- 「ひとつ大きな力と緑の楽しさを分かち合えて嬉しいです。これきっかけに、庭をつくる人が増えていることを願っています。小さな庭でも、驚かせられるなどにつながるは？」
- 来場者の感想
- いつも散歩する庭ならぬ庭が好きになりました。予想通りの気持な庭でした。他のオープンガーデンもお待ちしています。
- 普段見られない木や花をたくさん見ることができました。植物の名前を見て、庭づくりの参考にします！

「お庭の力で、庭の楽しさを分かち合えて嬉しいです。これきっかけに、庭をつくる人が増えていることを願っています。小さな庭でも、驚かせられるなどにつながるは？」

「いつも散歩する庭ならぬ庭が好きになりました。予想通りの気持な庭でした。他のオープンガーデンもお待ちしています。

「普段見られない木や花をたくさん見ることができました。植物の名前を見て、庭づくりの参考にします！」



## 「松原四丁目小さな森」



#### 「小さな森」制度とは？

世田谷区内の身近なみどりの大切さを普及し、保全につなげる当財団独自の制度です。50m以上の大木の所有者と当財団が契約を結び、年に数回オープンガーデンを行っています。庭を通じて、地域の交流が生まれるなどの効果もあがっています。

財団では「小さな森」制度でご協力いただける方を随時募集しております。

世田谷トラストまちづくり TEL 03-6407-3311へ

門に入り、建物に沿って花に目をやり、最後南へまわると、現れたのは緑蔭。そこに腰掛け、サツキやアジサイなど、季節の花々の色合映える庭を眺めていると、またおばあちゃんの家に帰った気分のような、懐かしい気持ちに。

次々に来場したお客様さんも、緑側でお茶を飲みつつ、庭の風景を思い、楽しんでいました。こちらのオーナーは、荒木さんと長谷川さん。もともと庭のあったお二人の祖母さまのもだつたそ。

「他界した祖母の想いを引き継ぎ、なるべく自然に近い雰囲気を残すように、庭を維持している気がします」

そろそろ荒木さんの視線の先には、地面を歩くようによくドクタミの花が。どの草花にも長年注がれてきた愛情があふれ、庭中が優しい香氣で満たされた気がしました。こちらが「出迎えてくれました」。こちら

「松原四丁目小さな森」は、東急田園都市線駅が最寄り駅

コニファーラーの木が。お客様を迎えたミモザの木が。

「おがん」と、オーナーの田中さん

が「出迎えてくれました」。こちら

が「お出迎えです」。

「小さな森」の看板でお客さんをお出迎え。オープンガーデン時には、サシキやアジサイが色鮮やかに咲き誇っていました。



## 「豪徳寺一丁目小さな森」



お客様は、植物に興味のある方ばかり。オーナーやボランティアを交え、庭の草花の話で盛り上がります。



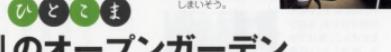
「いつも花を独り占めしている猫たちを防ぐために、今日はこそぞこ。」

#### 荒木さんと長谷川さんの感想

今日一日みなさん楽しんでいたよかったです。また公開して、ぜひみんなさんに足を運んでもらいたいです。

#### 来場者の感想

- 世田谷の住宅街にこんなにみどりが溢れる場所があることは、本当に驚きました。一つはあるというほかの「小さな森」にも行ってみたい
- 何かかわっている…。とふらりと立ち寄ってみたら迷われる空間に出合えて大満足です。



## 「小さな森」のオープンガーデン

世田谷トラストまちづくりが庭の所有者の協力を得て行う

「小さな森オープンガーデン」を訪ねました。

「小さな森」は、個人の庭を地図に紹介する事業で、現在9つある庭は、雰囲気もそれぞれ様々です。

今回は、6月10(水)に開かれた「豪徳寺一丁目小さな森」と

6月23(水)に開かれた「松原四丁目小さな森」の様子をご紹介します。



# せたがや の 宝物

Treasures of Setagaya

## ジャコウアゲハ

アゲハチョウ科

「偏食」で我が身を守る  
大きな翅の優雅な飛来者



上／蝶の成虫。真っ黒な翅の雄の成虫は、名の由来である麝香（じゃこう）のような独特の匂いを出します。下／無数の突起がユーモラスな幼虫。



突然ですが、みなさんの大好物は何ですか？ラーメン、ケーキ、それともチョコレート…？わたしたち人間が好きな物ばかり食べていると、偏食呼ばわりされてしまいますがね。しかし、チョウの幼虫は、「食草」というものをもつていて、決まった植物ばかりを好んで食べます。

多摩川の河川敷でみられるジャコウアゲハもそのひとつ。彼らは、ウマノスズクサというつの性の多年草を食草としています。これは実は、れっきとした理由があるのです。角のような無数の突起が特徴の幼虫は、ウマノスズクサに含まれる有毒成分を体内に蓄積します。おかげで、かれらを食べた鳥などの天敵は、ひどい中毒を起こしてしまうそうです。成虫になるとこの毒は残るため、天敵に

襲われることは少なく、ゆっくり飛び回ります。ジャコウアゲハの「偏食」は、大自然を生き抜くための意味ある行動のようです。また、蛹になると、ブロック塀や金網など、人工的な物についている

姿も見られます。このような高い適応性のおかげで、世田谷のような都会に近い自然環境のなかでも暮らしていくのでしょう。

ひとつの種を保護するためには、その環境を守ることが必要不可欠。多摩川では、外来種の草を定期的に刈り込む活動を行った結果、在来種であるウマノスズクサの群落が徐々に広がりを見せていました。一羽でも多くのジャコウアゲハが、大空へとばたくことを願いましょう。

## ひと・まち・自然

トライアムPRESS Vol.5 2010年9月発行



発行／財団法人世田谷トライアムちづくり  
編集／財団法人世田谷トライアムちづくり トライアムちづくり課

〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階 Tel.03-6407-3311, 3313 Fax.03-6407-3319

<http://www.setagayatm.or.jp/>

編集協力  
松井編集室

取材・文  
小池良実 (p2~7/p14~15)  
大木茉莉 (p10~13/p16~17/p20)

イラスト  
来迎美 (p8~9)  
南樹里 (p4/p13)

デザイン  
camps

写真  
佐藤俊彦 (p2~7)  
松井潤子 (p2~7/p12/p14)  
大木茉莉 (p10~13/p16~17)

⑥財団法人世田谷トライアム  
2010 Printed In Japan  
本誌掲載の写真・記事等の無断転載および複写を禁じます。



世田谷区が運営する「世田谷みどり33」に連携し、みどりの保全、創出に取り組んでいます。